

1 9 9 8

# 授 業 概 要

【シラバス】

## 福祉援助学科

SHIRAZUME GAKUEN COLLEGE

白梅学園短期大学



## 目次（福祉援助科）

### 教養教育科目（1年）

文学・フィクションと人間	3
王朝文学の世界	4
話し言葉の文芸	5
近代日本の歴史	6
西洋文学	7
東洋美術	8
演劇論	9
現代家族論	10
日本国憲法	11
生活の経済学	12
心理学入門	13
マスコミュニケーション概論	14
現代社会と女性	15
生命の科学	16
生物と環境	17
生活の科学	18
健康の生理学	19
情報処理入門	20
総合科目 人間	21
総合英語Ⅰ－1、2	23
スポーツA	25
スポーツB	28
健康科学	29
スポーツ科学	30

### 専門教育科目（1年）

#### ◇専門必修科目

社会福祉概論Ⅰ	33
社会福祉概論Ⅱ	34
老人福祉論	35
リハビリテーション論	36
老人の心理	37
家政学概論	38
介護概論Ⅰ	39
介護概論Ⅱ	40
介護技術Ⅰ	41
障害形態別介護技術Ⅰ	42
介護実習Ⅰ	45
介護実習Ⅱ	46
実習指導	47

◇福祉と処遇の理解

家族福祉論	.....	48
ボランティア論	.....	49
発達心理学	.....	50

◇福祉文化の援助と理解

保育文化論	.....	51
音楽とダンス	.....	52
遊びの造形	.....	54

教養教育科目（1年）



【授業科目名】 文学・フィクションと人間	【担当者】 栗田廣美
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>小説、映画、ドラマの中の「世界」は、どこにあるのだろう。それは、我々の住んでいる「この現実」とは別の、「もう一つの別世界」だ。この「別世界」の構造（しくみ）を考え、「芸術・フィクション」の秘密に迫るのが目標です。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>随時、プリントを配布します。プリント以外の「読書課題」は、ありません。</p>	
授 業 計 画	
<p>だいたい、次のような流れで、講義して行きます。      具体的作品は、プリント等を使って紹介＝解説します。</p> <p>【①「フィクション」について】</p> <p>例えば「小説」に書かれたことは、要するにすべて「作り事」、つまり「フィクション・虚構・ウソッパチ」だ。……映画も、テレビドラマも同じこと。      しかし、我々は、なぜ、そんな「ウソッパチ」に接して、感動したり、中には「生き方が変わってしまう」人まで出てくるのか。</p> <p>【②「作品世界」の構造（しくみ）について】</p> <p>「作品世界＝もう一つの別世界」は、どのような「仕組み」で出来ているのだろうか。……そもそも、それは、誰が「見ている」世界なのか。「語っている」のは「誰」なのか。少なくとも、いわゆる「作者」ではないはずだ。</p> <p>【③フィクションと「現実」について】</p> <p>小説・映画・ドラマは「現実ではない」という。では、「現実」とは何なのだろう。何が「フィクション」で、何が「フィクションではない」のか。</p> <p>……日本とヨーロッパの、近代文学作品を中心に、美術や音楽も視野に入れた講義になると思います。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験（ノート・プリント等、何でも参照可）。講義に基づいて「書く」形式。講義をよく聞いて、しっかりノートを取っておけば、大丈夫。出席点を加味して、総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 王朝文学の世界	【担当者】 久保木寿子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 日本の古典作品の多くが、受験文法のために使われるのみで、その内容を知られないままに終わってしまうのは、とても残念なことだと思われる。</p> <p>優れた古典は、作品としての主張を持っており、現代に生きる私たちの解説をこそ待っている。王朝文学のおもしろさに気づくことが、第一の目標である。ついで作品の主張の意味を時代に即して考えることにしたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>岩波文庫『竹取物語』・配布プリント</p> <p>参考書は授業時に紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>初期の物語作品からまず『竹取物語』をとりあげ、口伝えによるカタリから物語が生成してくるこの意味について、考えていく。</p> <p>ついで『源氏物語』をとりあげて、物語の成熟のさまを見る。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、様々な竹取の物語</li> <li>2、カタリの話型と、話型による物語</li> <li>3、難題婚譚の達成</li> <li>4、かぐや姫とは何か（物語の主題）</li> <li>5、物語の中の異界：『古事記』の場合・『源氏物語』の場合</li> <li>6、源氏物語の論理：形代・予言・宿世・身分</li> <li>7、源氏物語の主題：王法と仏法・社会制度と自我</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験時レポート、及び授業時の「マトノメセ」による。</p>	



【授業科目名】 話し言葉の文芸	【担当者】 東喜望
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 将来に資するために、口承文芸をとりあげます。      初めに、口承文芸（昔話・伝説・神話など）を概観し、日本の代表的な話をとりあげながら、その話の淵源をたずねていきます。      大陸や環太平洋諸地域との関連も積極的に考究していく予定です。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 1. 適宜に、講義資料を配布します。      2. 参考書：岩波文庫『日本の昔ばなし』I. II. III (関敬吾編)</p>	
授 業 計 画	
<p>講義は、およそ以下の項目にそっておいいます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 自然と文化</li> <li>2. ことばと文化</li> <li>3. 文芸の起源</li> <li>4. 口承文芸</li> <li>5. 昔話の形態</li> <li>6. 昔話のルーツ</li> </ol>	
【評価方法】 定期試験のときに実施する筆記試験。	

【授業科目名】 近代日本の歴史	【担当者】 伊香俊哉
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>近代日本の歩みは戦争との関わり抜きには語れない。その戦争が近隣諸国・諸地域になにをもたらしたのかについての理解を深める。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：特になし 参考文献：多数あるので、講義の中で逐次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>近代日本の歩みを主に対外的な軍事的展開を中心にみていく。そしてその中での日本軍の行動の違法性や犯罪性について各自に考えてもらいたい。</p> <p>以下のテーマを取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇日本の大陸進出</li> <li>◇戦争違法化</li> <li>◇中国ナショナリズムと日本</li> <li>◇日本の中国侵略</li> <li>◇「従軍慰安婦」</li> <li>◇731部隊</li> <li>◇南京事件</li> <li>◇昭和天皇と十五年戦争</li> <li>◇東京裁判</li> <li>◇BC級裁判</li> <li>◇戦後補償問題</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席とレポート又は筆記試験により総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 西洋文学	【担当者】 衣川清子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 女性作家によって書かれた19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のいくつかに触れることによって、知識、視野、教養の幅を広げることを目標とします。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 テキストは特になし。参考書や資料は必要に応じて紹介します。</p>	
授 業 計 画	
<p>この授業では19世紀および20世紀の西洋文学の小説（児童文学を含む）のうちから、女性作家によって書かれたいくつかの作品を選び、作品が生まれた背景、作品の内容と特徴、作者の横顔、その作品がどのように読まれてきたかなどを紹介し、あわせて女性をとりまくさまざまな問題を考える一種の文学案内にしたいと思っています。</p> <p>毎回の授業で一つの作品を扱う予定です。取り上げる予定の小説は、ジェイン・オースティン『いつか晴れた日に』、シャーロット・ブロンテ『ジェイン・エア』、ルーシー・モード・モンゴメリー『赤毛のアン』、フィリップ・ピアス『トムは真夜中の庭で』、ローラ・インガルス・ワイルダー『大きな森の小さな家』、マーガレット・ミッチェル『風と共に去りぬ』、アリス・ウォーカー『カラー・パープル』、イサベル・アジェンデ『精霊たちの家』、エイミ・タン『ジョイ・ラック・クラブ』、テリー・マクミラン『ため息つかせて』、スザンナ・タマーロ『心のおもむくままに』などです。また、ミステリーのジャンルから、気になるいくつかの作品を取り上げる予定です。（作品リストは変更する場合があります。）音声や映像の資料がある場合はそれらも活用したいと思います。この機会にいろいろな小説を読んでみたいと思っている学生の聴講を期待します。</p> <p>授業の進め方やスケジュールなど、詳しくは初回の授業で説明します。</p>	
<p>【評価方法】 平常点と期末レポート（「書評」）の総合評価とします。詳細は授業中に説明します。</p>	

【授業科目名】 東洋美術	【担当者】 山田 磯夫
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>東洋といっても範囲が広く、各地域ごとに相異なる文化圏に属し、異なった美術様式をもっているため、これらを一元的に講義することは困難である。そこでこの講座では、アジアの諸地域にわたって強く影響をおよぼした仏教に焦点をあて、極東の国・日本で生み出された仏教美術、特に仏教彫刻について概観する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 : 辻惟雄監修『カラー版 日本美術史』美術出版社 久野 健 『仏像の歴史』 山川出版社</p>	
授 業 計 画	
<p>日本の仏教美術は近世以前の日本美術の形成・発展において常にその母胎となってきた。この講座では、まず仏教美術理解の基本である仏像の見方について学び、次いで古代から中世に至る仏像彫刻を取り上げ、彫刻様式の流れの理解につとめる。スライド使用。</p> <p>以下のテーマに沿って進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①はじめに一東洋の文化圏とシルクロード</li> <li>②仏像の見方(1)</li> <li>③仏像の見方(2)</li> <li>④飛鳥時代の彫刻Ⅰ—仏教伝来と最初の仏像</li> <li>⑤飛鳥時代の彫刻Ⅱ—法隆寺の仏像と止利仏師</li> <li>⑥白鳳時代の彫刻—旧山田寺の仏頭</li> <li>⑦天平時代の彫刻Ⅰ—薬師寺の仏像</li> <li>⑧天平時代の彫刻Ⅱ—東大寺の仏像</li> <li>⑨平安時代の彫刻Ⅰ—木彫の誕生と一木造</li> <li>⑩平安時代の彫刻Ⅱ—寄木造と仏師定朝</li> <li>⑪鎌倉時代の彫刻—南都復興と慶派仏師</li> <li>⑫講義のまとめ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>筆記試験</p>	

【授業科目名】 演劇論

【担当者】 高橋秀雄

【開講期】 1 年 前期

【授業目標】 “人生は劇場なり”という言葉があり、また、演劇は宗教儀礼から発しているという説があるように、演劇は古くから生活の中の文化として成立し、多様な展開をみせてきた。この演劇の展開の歴史を辿り、演劇について考察を試み、とくに西洋と東洋、さらには日本との比較の中で演劇の特質を探究する。

【テキスト・参考書】

テキスト：使用しない

参考書：各種演劇関係書（その都度指示する）

### 授 業 計 画

洋の東西における演劇の特色を明らかにするとともに、演劇の構成要素である演出・演技・舞台美術・照明・音響・衣裳などの演劇の基礎的表現を分析し、さらには、西欧の諸演劇と日本の演劇と比較することによって、その多様性と特質を理解する。各テーマについては、1回または数回の講義となる。

1. 宗教儀礼と演劇
2. 悲劇と喜劇
3. 能と「花伝書」
4. リアリズム演劇とスタニスラフスキー・システム
5. 歌舞伎と「虚実皮膜論」
6. 歌舞伎と新劇
7. オペラとミュージカル
8. 比較演劇論
9. 現代と演劇

【評価方法】

1. 期末のレポート
2. 授業時の小レポート
3. 授業時の平常点

左記3項による総合評価

【授業科目名】 現代家族論	【担当者】 民秋 言
【開講期】 1 年 後期	
<b>【授業目標】</b> 人類の歴史と共に古い、といわれる家族。この家族は今日の社会において私達の生活とどうつながりをもっているか。今日、いろいろな角度から家族がテーマとされるが、本講では「福祉」の視点から考えてみる。福祉すなわち「人間としての幸せ」は家族とどうかかわっているか、が主たるテーマとなる。	
<b>【テキスト・参考書】</b>  望月 嵩、木村 汎共編 『現代家族の福祉－家族問題への対応』 培風館	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 人間にとって家族とは何か  2. 家族のはたらき  3. 家族のタイプ  4. 家族のしくみ  5. 家族と福祉  6. まとめ	ー 家族は人類の歴史と共に古い集団といわれる。つまりわれわれ人間にとって家族は必須のものであったし、今後もそうであろう。人間が生きることとの関わりで「家族」の定義をする。本講では家族を「福祉追求の集団」とする。  ー 家族は基礎的集団といわれ、いろいろなはたらき（機能）を同時併行的にもつ。しかし今日の社会では、すべての機能が一樣に求められているとは限らない。家族がもつどのような機能に注目すればよいか考える。  ー 家族という集団を形成し、それを拠点として生活するとき、そこにはさまざまな家族のタイプが生ずる。また社会全体がもつきまりやルール（規範）によって家族のあり方も規制される。どのような家族のタイプが望ましいか、考える。  ー 家族がもつ目標を達成するためにはそのしくみ（構造）が問題となる。役割構造と権威構造との2面から検討する。  ー 家族は福祉追求の集団であるとするとき、そこにはいくつかの課題が生ずる。 (1) 子どもの養育と家族福祉 (2) 母子家庭、父子家庭と家族福祉 (3) 高齢化社会における家族福祉  ー 今後、家族を形成するものとして、望ましい家族福祉の姿を考えてみる。
<b>【評価方法】</b>  ペーパーテストを期末に実施	

【授業科目名】 日本国憲法	【担当者】 駒村圭吾
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】          日本国憲法における統治機構(国のしくみ)と人権(自由や平等)について講義する。日常的事例を用いて平易に語るつもりである。また、判例・学説の紹介もすることになり、憲法感覚のよくなるものも伝えたい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          板書を行うので、テキストは特に指定しない。          ただし、何れもよいので六法全書も携行してもよい。</p>	
授 業 計 画	
<p>日本国憲法の内容は、多岐にわたるが、その中から重要かつ日常的なものも採り挙げ、とき々は毎回「読み切り」的に講義したい。今のところ、以下の項目を語るつもりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 憲法の基本原理・基本構造</li> <li>(2) 人権の主体(外国人, 天皇, 未成年者, 公務員, 在監者)</li> <li>(3) 表現の自由, 信教の自由, 政教分離</li> <li>(4) 生存権, 教育を受ける権利</li> <li>(5) 平等, 幸福追求権, 新しい人権</li> <li>(6) 天皇, 国防(9条)</li> <li>(7) 統治のしくみ(政治のしくみと裁判所)</li> <li>(8) フェミニズムと女性の権利</li> <li>(9) 死と生の自己決定(安楽死, 中絶, 死刑)</li> </ol> <p>* なお、担当者は、教室管理に厳格であるので、この点注意されたい。私語が厳禁なのは当然のこととして、その他受講態度が不良の者は、たとえ初犯であっても、その場で単位の不授与を決定し、一切の抗弁も認めないことがあります。</p> <p>* 実例を用いて、分かりやすく語るつもりである。予習は特に必要ではないが、毎回出席して克明にノートもとって、復習する努力はしてほしい。</p>	
<p>【評価方法】          毎月末試験による評価 (場合によっては出席実績も勘案する。)</p>	

【授業科目名】 生活の経済学	【担当者】 内山哲朗
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>現代日本経済を「生活の豊かさ」の視点より取り上げ、「経済の豊かさ」と「生活の豊かさ」の関連構造を検証しながら、「経済と生活」をつなぐ基本的論理について講義を進めていく。戦後日本経済の歩みとその問題点に目を配る中から、21世紀に向かう「日本の生活像」に関する基礎知識の修得をめざす。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に指定しない。講義の中で適宜参考文献を紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>講義で取り上げるテーマは、以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 生活把握の基本視点——労働・家族・地域——</li> <li>2 戦後日本経済の展開過程——時期区分——</li> <li>3 戦後日本の生活の変容</li> <li>4 「豊かさ」とは何か——生活経済学の論理——</li> <li>5 「生活の豊かさ」と高齢社会</li> <li>6 「生活の豊かさ」と環境問題</li> <li>7 生活福祉の社会経済学——非営利・協同の経済セクター——</li> <li>8 生活福祉と社会政策</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>授業への出席と定期試験を総合的に勘案して評価する。</p>	



【授業科目名】 心理学入門	【担当者】 林 潔
【開講期】 1年後期	
<b>【授業目標】</b> 心理学の基本的なテーマについて紹介します。 すなわち、性格論，対人関係が，中心てきなテーマになります。	
<b>【テキスト・参考書】</b> テキスト：なし 図書館にある指定図書を使います。割り当てられた週に利用して下さい。 重野純「キーワードコレクション心理学」，金子隆芳「心理学フロンテア」， 大山正「心理学への招待」，北尾倫彦「心理学への招待」， 岡本栄一「心理学テイクタイム」，藤本忠明「ワークショップ心理学」他	
<b>授 業 計 画</b>	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 心理学のなりたち： 心理学のながれについて</li> <li>2. ものの見方と人間の行動について： 行動と知覚，認知との関係を考える。</li> <li>3. 人間の行動と条件づけ： 行動論について</li> <li>4. 幼児期と性格形成 VTRを利用します。</li> <li>5. 意識と無意識：精神分析の人間理解(1)： Freudの思想，精神分析概説</li> <li>6 同 (2)： libidoの役割とlibidoの発達</li> <li>7 同 (3)： 自我の防衛</li> <li>8 同 (4)： 物語と夢の分析</li> <li>9 性格について(1) 基本的な性格論</li> <li>10 性格について(2) 性格理解の試み</li> <li>11. 社会・集団と人間行動 集団とリーダーの役割について</li> <li>12. パニックの心理 VTR利用</li> <li>13. 心理療法の役割</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 平常点，中間試験，レポート	

【授業科目名】 マスコミュニケーション概論	【担当者】 瀬木博道
-----------------------	------------

【開講期】 1 年 前期
--------------

【授業目標】 現代はマスコミに支配された時代といえる。この状況を是省まえて、マスコミとジャーナリズムの本質と差違を考え、マスコミ全般の問題に是省み込んでみたい。「知る権利の問題」に重点を置く。

【テキスト・参考書】 瀬木博道ほか著「コミュニケーションするPR」電通  
 テキスト： 瀬木博道ほか著「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所  
 参考書 同上「広報の基礎Ⅰ」日経広告研究所

授 業 計 画

- マスコミとは何か。現状 (上)
- 同 上 (下)
- ジャーナリズムとは
- 言論の自由と知る権利 (上)
- 同 上 (下)
- テレビの問題点
- 広告概論 (上)
- 同 上 (下)
- 広報概論 (上)
- 同 上 (下)
- マスコミのゆく — 新聞を中心に

【評価方法】 受講態度 } を見て、筆記試験で決める  
 出席状況 }

<b>【授業科目名】</b> 現代社会と女性	<b>【担当者】</b> 富永静枝
<b>【開講期】</b> 1 年 前期	
<b>【授業目標】</b> <p>男女共生社会に向けて、伝統的な性別役割分業を見直し、21世紀に生きる男女の望ましいあり方や生き方を探る。</p>	
<b>【テキスト・参考書】</b> <p>参考書:適宜授業中に紹介する。</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>「男は仕事、女は家庭」という性別役割分業が見直され、働く女性が増大してる中で、女性をめぐる社会的状況は大きく変化しています。しかし一方では、不況下における女子学生の厳しい就職差別などに見られるように、女性が社会に出てから一人の人間として、自立して主体的に生きることは相変わらず困難な状況にあります。そこで変動する現代社会の諸問題、とりわけ家族、労働、教育、福祉の諸問題をジェンダーの視点から考えてみることによって、その問題状況を浮かび上がらせ、これからの望ましい男女のあり方や生き方を考えてみたい。</p> <p>内容は</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1)女性のライフサイクルの変化と性別役割分業、</li> <li>(2)現代社会と女性労働</li> <li>(3)高齢(化)社会と女性・家族・家庭</li> <li>(4)男女共生社会に向けての世界の動き・日本の動き</li> </ol> <p>を柱とし、それぞれ2~3回講義する予定であるが、学生の問題関心の寄せ方によって、変更することもある。</p> <p>授業方法は講義だけでなく、ビデオや新聞記事情報なども活用し、意見発表や討論なども加えて行います。また身近な問題なども取り上げることによって、それらの諸問題が学生自身の現在と将来における自分自身の問題でもあることを認識できるようにし、問題解決への意欲を持てるようにしたいと考えています。</p>	
<b>【評価方法】</b> <p>レポートその他。</p>	

【授業科目】 生命の科学

担当者 小作明則

【開講期】 一年 後期

【授業目標】

21世紀を迎えようとしている今日「生物の多様性」の維持は地球上の生物環境をより安全な状態で維持していくための大きな課題である。この生物の多様性を支えている「生命」について地球物理学、化学、進化生物学そして歴史学的な理解を深め、さらに地上における「人類」が抱える今後の諸問題について概説する。

【テキスト・参考書】

テキスト・参考書は特に指定しない。

授 業 計 画

この講義では授業目標に掲げた内容を理解するためおおよそ以下の各時間ごとのテーマに従って講義を進めていく。この講義は講義室での説明・板書だけが目的ではなく、できるかぎり実物を自分の眼で見、手でさわりバーチャルではなく五感を持って理解することを目的としたい。

以下に時間ごとのおおよその講義計画のタイトルを示す。

1. 太陽系と地球の誕生、物質の由来
2. 地球と水と生命誕生
3. 地球型生物の特徴と進化
4. 分子生物学と進化
5. 植物と動物の分化と進化
6. ヒトの進化と地球環境の変化
7. 動物の発生とヒトの生殖
8. ヒトの発生と成長

以上を講義として行い、これ以外に博物館、水族館、動物園等さらに玉川上水の散歩等、実物を見ながら生命について考えていこうと思っている。

【評価方法】

レポートあるいは筆記試験

【授業科目名】 生物と環境	【担当者】 吉川研二
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>下記の書を読破し、知的体力を養う          合成化学物質の環境汚染と生命とのかかわり          科学とは何か</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>OUR STOLEN FUTURE          邦訳『奪われし未来』 1997.9 翔泳社</p>	
授 業 計 画	
<p>人類は多くの生物たちから様々な恩恵を受けてきた。しかしこの多様な生物の世界は急激に失われつつある。その最大の原因は人類による生物の生息環境の汚染や破壊、資源の乱獲などである。多くの種の消滅は私たち人類の将来にかかわってくる。</p> <p style="text-align: center;">“Today Birds Tomorrow Men”</p> <p>今から30年以上前に、海洋生物学者のRachel L. Carsonは『Silent spring』で合成殺虫剤が自然界にもたらす危険性について警告した。その警告によって人類はどれだけ賢くなったのだろうか？知らないことが幸せなのか、知ることが不幸せなのか。</p> <p>授業は決して易しくはありません。幅広い基礎教養が要求されるはずです。今までの勉強がどれだけのものだったかが判ると思います。知る努力を惜しまず、共に考え続けていきたい。</p> <p>第 1章 前兆          2章 有毒の遺産          3章 化学の使者          4章 ホルモン異常          5章 子孫を絶やす50の方法          6章 地の果てまで          7章 シングルヒット          8章 ここにも、そこにも、いたるところに          9章 死の年代記          10章 運命の転機          11章 がんだけでなく          12章 わが身を守るために          13章 不透明な未来</p>	
<p>【評価方法】 平常点+筆記試験</p>	

【授業科目名】 生活の科学	【担当者】 滝沢靖臣
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 現代における私たちの生活の進展は大きく、衣食住並びに医薬品からコンピュータまで様々な物質に取り囲まれている。これらの物質を構成している分子や原子の世界に目を向けて、それらの特性を学ぶことにより、身近に起こっている科学的な現象を少しでもより正しく理解できるようになることを本講義の主眼としている。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p style="text-align: center;">授業の中で項目ごとに紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>物質の成り立ちを理解してから、それらの物質を通して私たちの身の回りの科学的現象が理解できるようにする。特に基礎知識がなくても理解できるように平易に解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 生活の中の物質科学を考えてみよう。</li> <li>2. 身の回りにおける水分子の世界を覗く。</li> <li>3. 原子と分子と私たちの生活。</li> <li>4. 原子はどのような構造をもっているのだろうか。</li> <li>5. 物質をつくっている分子の構造は何によってきまるのだろうか。</li> <li>6. 物質の状態は何によってきまるのだろうか。</li> <li>7. 金属と超伝導とはどのような関係にあるのだろうか。</li> <li>8. 酢は何故酸っぱく感じるのだろうか。</li> <li>9. アルコールの正体は何であろうか。</li> <li>10. 日焼けと日焼け止めと光化学反応。</li> <li>11. 老化は防げるか。活性酸素の科学。</li> <li>12. 物質科学とエネルギー</li> <li>13. 物質科学からみた衣類。高分子化学の世界をみる。</li> <li>14. 石油資源と石油化学を考える。</li> <li>15. 科学は地球を救えるか。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験、レポート、出欠により評価する。</p>	

【授業科目名】 健康の生理学	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1 年 後期	
<b>【授業目標】</b> 1. 健康の概念と健康管理活動の原理の理解 2. 人体各器官独自の生理機能と臓器間の相互関係の理解 人体各器官の生理的な加齢変化と疾病と相違の理解を通して、健やかな老いについて考える 3. 代表的疾患の成因を理解し、疾病予防や健康増進に必要な基本的知識の修得	
【テキスト・参考書】	
<b>授 業 計 画</b>	
1. 1) 健康の定義と健康観、2) 健康度の指標、3) 健康の推移、4) 健康管理の概念、5) 保健計画と健康教育、6) ヘルスプロモ-ション、7) 地域健康管理活動 2. 人体各器官独自の生理機能の理解と共に、各器官の生理的な加齢変化を細胞レベルおよび器官レベルで理解する。 1) 循環器系 2) 呼吸器系 3) 消化器系 4) 脳／神経系 5) 骨／筋肉系 6) 血液系、内分泌系 7) 泌尿／生殖器系 8) 耳鼻／口腔／皮膚系 3. (I) 代表的疾患の概要 1) 生活習慣病（悪性新生物、動脈硬化、高血圧、心臓病、脳卒中、糖尿病等） 2) 脳、神経疾患（老年期痴呆を含む脳血管障害） 3) 各種感染症（HIVウイルスも含む） 4) 精神疾患 5) 骨粗鬆症などの骨／運動器系疾患 6) その他（各診療科目の対象となる疾病、障害についての概要等） (II) 健康増進および疾病予防法 1) 食生活と栄養 2) 運動 3) 喫煙 4) アルコール 5) 休養とストレス	
<b>【評価方法】</b> 筆記試験	

【授業科目名】 情報処理入門	【担当者】 多喜乃 亮介
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>コンピュータを利用して「情報」とは何か、「情報を扱う（情報処理）」とはどのようなことかを理解する。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>Microsoft Word, Microsoft Excel, Netscape Navigator, Adobe PhotoShop, Adobe Illustrator などのソフトウェアを利用する予定です。必要に応じて参考図書を指示します。</p>	
授 業 計 画	
<p>「情報」となる素材をコンピュータ上で扱うための「技術」にはどのようなものがあるのか、その情報を「整理・分類」し、「再利用」できる形で「管理・保存」するにはどのような工夫が必要か、さらに、ネットワークを介して「情報」を「共有」するためにはどのような方法が有効か、といった「情報処理」に関連する事項を、実際のコンピュータ利用技術の習得を通して理解する。</p> <p>以下の項目にしたがって進めます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 情報の素材 (1) コンピュータに取り込むことのできる素材</li> <li>2. 情報の素材 (2) コンピュータで作成できる素材</li> <li>3. コンピュータの仕組み 情報がどのように扱われているかを知る</li> <li>4. 情報の利用 &lt;ネットワーク (1)&gt; Web Page 上の情報利用, 情報検索</li> <li>5. 情報の交換 &lt;ネットワーク (2)&gt; 電子メールを用いた連絡</li> <li>6. 素材の作成 (1) ワープロソフトを利用した文書情報</li> <li>7. 素材の作成 (2) 表計算ソフトを利用した数値情報</li> <li>8. 素材の作成 (3) 絵や写真情報の加工</li> <li>9. 情報の共有 &lt;ネットワーク (3)&gt; Web Page に情報を公開する方法</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>課題の提出</p>	



【授業科目名】 総合科目人間	【担当者】 黒田 瑛
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>本科目は前期、後期を通して開講され、副題を「人権と平和」とする。前期は人権についての理解を深め、「ヒューマニズム」とは何かを問う。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 特になし。 参考書 講義のなかで随時紹介する。</p>	
授 業 計 画	
<p>今、なぜヒューマニズムを問うのかを説くなかで、現代社会の特徴と諸問題を明らかにする。人間が人間として生き、人格として育つための条件となるのが、基本的人権の主張とその保障である。人権とは何かを論じ、人権の思想の歴史的発展と現代の状況を考える。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ヒューマニズムの意義</li> <li>2. 人間を考える</li> <li>3. 人権の承認と保障       <ol style="list-style-type: none"> <li>①人権の主張と保障の歴史 自然法思想（J. ロック）、アメリカの独立宣言、フランスの人権宣言 世界人権宣言（国際連合）、日本国憲法</li> <li>②基本的人権の種類 自由権的基本権と社会権的基本権</li> <li>③教育・福祉と人権の保障</li> </ol> </li> <li>4. 人権思想の発展と現代の課題       <ol style="list-style-type: none"> <li>①権利保障の充実を求めて 女性の権利、子どもの権利</li> <li>②新しい人権の主張 プライバシーの権利、知る権利、環境権</li> <li>③新しい倫理と法 環境倫理学、生命倫理学</li> </ol> </li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>レポートの提出および授業への出席</p>	

【授業科目名】 総合科目人間	【担当者】 平賀明彦
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>近現代の世界各地におけるいくつかの戦争をとりあげ、戦争とは何か、戦争は人々に何をもたらすのかといったことを考えることを通じて、平和とは、平和を生みだし、維持するための条件は何かとの間に接近したい。</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト：持になし</p> <p>参考文献：多数あるので、講義の中で逐次紹介する</p>	
授 業 計 画	
<p>授業ではまず戦争に興味をもってもらうことから始める。そのため戦争を題材としたドキュメンタリーや映画などを観てもらう。その上で、その戦争がどのような歴史的な経緯で起こったのか、民衆にどのような規模の被害をもたらしたのかといったことを解説していきたい。</p> <p>授業では次のテーマを取り上げる予定である。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◇ベトナム戦争</li> <li>◇中東紛争</li> <li>◇ボスニア紛争</li> <li>◇湾岸戦争</li> <li>◇ルワンダ紛争</li> <li>◇A B C兵器</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>出席とレポート又は筆記試験により総合的に評価する。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I - 1、2	【担当者】 田中安行
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 簡潔な英語を聞き、話す力をつける。そして英語の音声と簡単な表現に慣れて、日常生活で相手の言うことを理解し、自己表現できるようにする。</li> <li>2. 英語で書かれた世界の生活、文化、歴史、福祉問題、などに関する文章や時事問題、英詩、エッセイに触れながら、英語を理解する力をつける。同時に21世紀に生きる人間としての広い教養と国際的なものの見方や考え方を学び、21世紀社会での福祉に携わる人間に必要な生き方を身につけられるような学習を目指す。</li> <li>3. 将来世界の福祉のさまざまな分野で活動するための基礎的な教養を身につけられるような英語学習にする。</li> </ol>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>開講時に指示する。</p>	
<p>[授業計画]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 音声訓練 ビデオ教材やテープを利用して、英語の音声に慣れ、理解できるような訓練を行う。</li> <li>2. 音声表現 視聴覚教材や読み物教材の重要表現を習得して、音声での自己表現もできるように学習する。</li> <li>3. 文章理解 精読と多読によって文章の構造を理解させながら、パラグラフ・リーディングや要約ができるような文章理解を学ぶ。</li> <li>4. 国際的な文化理解 現在の世界の生活、文化、歴史、福祉問題などを取りあげた英語教材を用いて、広い視野で学び、世界の多くの文化や歴史的背景を理解し、将来日本だけでなく、世界の福祉の様々な分野で活動するための基礎的な教養を身につけられる英語学習にする。</li> </ol> <p>[授業方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 平易な会話、エッセイ、英詩、小説、英字新聞やインターネットからの時事英語などを教材に使う。</li> <li>2. それぞれのジャンルの英文について聞き方、話し方、読み方、書き方の基本と応用を演習する。</li> <li>3. 語句や意味の奥にある意味を理解することを通して異文化理解の方法を学ぶ。</li> <li>4. さまざまな場面で自己表現するための話し方や書き方を身につける。</li> <li>5. 英文、英詩作り、ニュース作り、文集作りなどによって実践的な英語力を高める。</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>ふだんの学習状況や発言などの平常点と口頭による質疑応答やレポートおよびテストなど総合的に行う。</p>	

【授業科目名】 総合英語 I-1、2	【担当者】 中島好伸
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】          音声、文字、意味を一つのものとしてとらえる訓練をすることによって、実用的な運用能力を高めると同時に、国際的な教養を身につける。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          未定（開講時に指示）</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>英語を身につける方法の柱は3本。1) 辞書を片手に英語を読みこなすこと。その際に、長い文章は短く切ること（主語一つ動詞一つくらいに）。動詞の用法をいち早く身につけること。「冠詞＋形容詞＋名詞」このセットが主語になり目的語になり、要は名詞（形容詞はわからなくとも意味は通る）、わからなければ辞書を引きまくる。こうして英文を多く仕入れ、語彙を増やす。2) 英語を多く聞く。はじめは全くわからなくとも、次第に次第に単語を拾えるようになる。NHKの「ラジオ英会話」や「やさしいビジネス英語」はお勧め。3) 1と2で仕入れた表現をぶつぶつ口で言ってみること。そして実際に使ってみること。以上の3本（作文は一番高度な技術だ）です。現実的にはこれらの技能を週1時間でこなすことは無理なのだから、まずは主体的に英語の勉強をすることが大切。この授業では、そのお手伝いとして、多くのダイアログを読みながら、ぶつぶつ言いながら、使いながら会話表現を身につけます。あとは主体的に勉強することが大切です。成績は出席と毎回の小テストで出します。</p>	
<p>【評価方法】          毎時間行う小テストに出席を加味して評価する。</p>	





【授業科目名】 スポーツA      バドミントン	【担当者】 岡田光弘
【開講期】      1 年      後期	
<p>【授業目標】 * 練習の仕方、試合の仕方、観戦の仕方などを、  段階的に技術を学んでいくなかで、習得すること</p> <p>* 自分たちだけで試合ができるようになること</p>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>特に指定しない</p>	
授 業 計 画	
<p>自分たちだけで試合ができるように、以下の順で進行する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. ミニゲーム</li> <li>2. ドリル</li> <li>3. ダブルスでのゲーム</li> <li>4. シングルスでのゲーム</li> <li>5. セッティング形式でのゲーム</li> </ol> <p>以下の技術についての基礎練習</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. サーブ</li> <li>2. クリア</li> <li>3. ヘアピン</li> <li>4. スマッシュ</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>・ 技術、態度、知識（小テスト）を評価する。</p>	

【授業科目名】 スポーツB スキー	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 スキーの特性について理解するとともに、その知識と技能（歩行、滑走、回転など）について習得する。</li> <li>2 雪上環境に対する対処能力を高める。</li> <li>3 スキーに親しみ愛好する態度を伸ばす。</li> </ol>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>参考書 全日本スキー連盟編：日本スキー教程、スキージャーナル社、1994年。</p>	
授 業 計 画	
<p>今日、日常生活の場から自然が失われ自然との共存が課題となってきた。自然環境を活用したスキーは、スポーツとしてだけでなく、健康の増進やレクリエーションとしてもきわめて効果的である。しかし、雪上でのスキーは、さまざまな自然条件の影響を受けやすく（事故災害）、また、技能の習得において個人差が生じやすい。</p> <p>そこで、自然に触れ合うことの楽しさや喜びを十分に体験できるように、自由練習や個別指導を重視する。また、斜面や雪質の状態に応じた適切な技能と判断力が得られるように技能クラス別の指導を展開する。</p> <p>1、日 程      1999年1月下旬 計画・準備                  2月下旬 スキー実習（3泊4日）</p> <p>2、場 所      学内及び上越国際スキー場（新潟県塩沢町）</p> <p>3、参加者      学生35名、教員3名</p> <p>4、内 容      計画・準備                  スキー実習                  第1日目 移動、スキー実技                  第2日目 スキー実技、講義                  第3日目 スキー実技、評価                  第4日目 スキー実技、移動                  実習内容                  歩行、登行、方向転換、滑降                  回転（プルークボーゲン、プルークターン、パラレルターンなど）                  用具のメンテナンス</p> <p>5、費 用      約50,000円（交通費、宿泊費、保険料など）                  ＊他に昼食費が必要となる。                  ＊スキーセット、ウェアをレンタルする場合、約8,000円、約6,000円が加算される。</p>	
<p>【評価方法】</p> <p>平常試験（意欲・努力、実技等）</p>	



【授業科目名】 健康科学	【担当者】 村田 務
【開講期】 1年 後期	
<p>【授業目標】</p> <p>人間性豊かで健康的な生活を確立するために必要な能力と態度を養う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・今日の健康問題について</li> <li>・健康の破壊と成立について</li> <li>・健康の設計と処方について</li> </ul>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 使用しない</p> <p>参考書 宇土正彦・正木健雄監修：青年の健康と運動、現代教育社、1995年。          国立大学等保健管理施設協議会編：学生と健康、南江堂、1996年。</p>	
授 業 計 画	
<p>人間性豊かで健康的な生活を営むためには、健康問題の本質を正しく捉え、解決に向けての適切な判断力と実践的な行動能力が必要となる。また、今日の健康問題は、その多くが社会的な環境に大きな影響をうけている。そして、その解決には、人間の生物学的側面や行動学的側面はもとより、環境的側面及び保健医療体制的側面を抜きにしては考えられない。</p> <p>授業では、このような健康観に立って、疾病予防と健康増進の学問としての健康科学の知見や考え方について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1、健康科学の概念</li> <li>2、今日の健康問題</li> <li>3、疾病の疫学と健康の成立</li> <li>4、主体と健康</li> <li>5、環境と健康</li> <li>6、保健医療体制と健康</li> <li>7、保健行動と健康</li> <li>8、健康問題Ⅰ（医学的、生物学視点から）</li> <li>9、健康問題Ⅱ（心理学的、社会学的視点から）</li> <li>10、健康問題Ⅲ（行動科学的視点から）</li> <li>11、健康問題Ⅳ（保健医療体制、保健行政の視点から）</li> <li>12、健康生活の設計と処方</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>定期試験（ペーパーテスト）及び平常試験（レポート、平常点）</p>	

【授業科目名】 スポーツ科学	【担当者】 岡田光弘
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ スポーツを見て楽しめるようになること、</li> <li>　　スポーツを試してみたいくなること</li> <li>・ スポーツを社会現象として、批判的に見る眼を養うこと</li> </ul>	
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>AERA MOOK「スポーツ学のみかた」朝日新聞社</p> <p>日本プロテニス協会編「テニス教本」スキージャーナル 1994</p>	
授 業 計 画	
<p>以下のようなトピックを扱う。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. スポーツと科学：スポーツ科学の全体像</li> <li>2. ジャンプ競技と揚抗比</li> <li>3. ポブスレーとクロストレーニング</li> <li>4. スポーツの技術・道具の変化と科学</li> <li>5. 滑降競技と乳酸</li> <li>6. 滑降競技と環境問題</li> <li>7. ドーピング問題と日常生活</li> <li>8. スポーツとアイデンティティ：ラクロス、カーリング</li> <li>9. スポーツとルール</li> <li>10. スポーツと遊び</li> <li>11. スポーツ解説と分析</li> </ol>	
<p>【評価方法】</p> <p>各時間ごとの提出物と期末のレポートで評価する。</p>	

專門教育科目（1年）



【授業科目名】 社会福祉概論Ⅰ	【担当者】 鍾 家新																														
【開講期】 1 年 前期																															
<p>【授業目標】</p> <p>現代社会における社会福祉の意義及び理念について体系的に理解させる。そのために、その対象、主体、ニーズ及びその変容、社会福祉の発展について学ばせ、社会福祉の法体系、制度及び財政、運営組織、福祉の措置等、社会福祉制度及び運営全体の概要を理解させる。さらに、社会保障及び関連制度の理解を深めるため、所得保障、医療保障、雇用、住宅などの制度について理解させ、福祉援助者として必要な知識を身につけさせる。</p>																															
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座 1 社会福祉概論』中央法規、1998年。</p>																															
授 業 計 画																															
<table style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr><td style="width: 80%;">1. 私たちの暮らしと社会福祉</td><td style="width: 20%; text-align: right;">(第1回)</td></tr> <tr><td>2. 社会福祉とは何か。</td><td style="text-align: right;">(第2回)</td></tr> <tr><td>3. 社会福祉の概念のとらえ方</td><td style="text-align: right;">(第3回)</td></tr> <tr><td>4. イギリスの社会福祉</td><td style="text-align: right;">(第4回)</td></tr> <tr><td>5. アメリカの社会福祉</td><td style="text-align: right;">(第5回)</td></tr> <tr><td>6. スウェーデンの社会福祉</td><td style="text-align: right;">(第6回)</td></tr> <tr><td>7. 社会事業成立以前</td><td style="text-align: right;">(第7回)</td></tr> <tr><td>8. 社会事業成立期</td><td style="text-align: right;">(第8回)</td></tr> <tr><td>9. 戦後社会福祉の展開</td><td style="text-align: right;">(第9回)</td></tr> <tr><td>10. 社会福祉の法制</td><td style="text-align: right;">(第10回)</td></tr> <tr><td>11. 所得保障制度</td><td style="text-align: right;">(第11回)</td></tr> <tr><td>12. 医療保障制度</td><td style="text-align: right;">(第12回)</td></tr> <tr><td>13. その他社会保障関連制度</td><td style="text-align: right;">(第13回)</td></tr> <tr><td>14. 社会福祉行政</td><td style="text-align: right;">(第14回)</td></tr> <tr><td>15. 社会福祉の財政</td><td style="text-align: right;">(第15回)</td></tr> </table>		1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)	2. 社会福祉とは何か。	(第2回)	3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)	4. イギリスの社会福祉	(第4回)	5. アメリカの社会福祉	(第5回)	6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)	7. 社会事業成立以前	(第7回)	8. 社会事業成立期	(第8回)	9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)	10. 社会福祉の法制	(第10回)	11. 所得保障制度	(第11回)	12. 医療保障制度	(第12回)	13. その他社会保障関連制度	(第13回)	14. 社会福祉行政	(第14回)	15. 社会福祉の財政	(第15回)
1. 私たちの暮らしと社会福祉	(第1回)																														
2. 社会福祉とは何か。	(第2回)																														
3. 社会福祉の概念のとらえ方	(第3回)																														
4. イギリスの社会福祉	(第4回)																														
5. アメリカの社会福祉	(第5回)																														
6. スウェーデンの社会福祉	(第6回)																														
7. 社会事業成立以前	(第7回)																														
8. 社会事業成立期	(第8回)																														
9. 戦後社会福祉の展開	(第9回)																														
10. 社会福祉の法制	(第10回)																														
11. 所得保障制度	(第11回)																														
12. 医療保障制度	(第12回)																														
13. その他社会保障関連制度	(第13回)																														
14. 社会福祉行政	(第14回)																														
15. 社会福祉の財政	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況。</p>																															

【授業科目名】 社会福祉概論Ⅱ	【担当者】市川一宏																														
【開講期】 1 年 後期																															
<p>【授業目標】 社会福祉の遂行と福祉専門職の必要性、および、その公務専門職員および民間専門職員による福祉活動や福祉社会確立の必要性について理解させることを目標とする。さらに、社会福祉援助技術の概要および動向、社会福祉専門職の概要と福祉資格法の必要性および倫理的諸問題について学ばせる。また、社会福祉ニーズの動向について理解させるため、福祉ニーズとその変容、在宅・地域福祉の台頭や民間サービス、社会福祉をめぐる国内外の近年の動向などについて学ばせる。</p>																															
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>福祉士養成講座編集委員会編『介護福祉士養成講座 1 社会福祉概論』中央法規、1998年。</p>																															
授 業 計 画																															
<table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 60%;">1. 社会福祉の主体</td> <td style="width: 40%;">(第1回)</td> </tr> <tr> <td>2. 社会福祉ニーズとは何か</td> <td>(第2回)</td> </tr> <tr> <td>3. 社会福祉ニーズの把握</td> <td>(第3回)</td> </tr> <tr> <td>4. 社会福祉援助の意味</td> <td>(第4回)</td> </tr> <tr> <td>5. 社会福祉の援助形態</td> <td>(第5回)</td> </tr> <tr> <td>6. 社会福祉の援助方法</td> <td>(第6回)</td> </tr> <tr> <td>7. 社会福祉の専門性と業務内容</td> <td>(第7回)</td> </tr> <tr> <td>8. 社会福祉専門職の倫理</td> <td>(第8回)</td> </tr> <tr> <td>9. 介護ニーズの社会的増大</td> <td>(第9回)</td> </tr> <tr> <td>10. 福祉士法の社会的意義</td> <td>(第10回)</td> </tr> <tr> <td>11. 福祉士法の全体的内容</td> <td>(第11回)</td> </tr> <tr> <td>12. 少子・高齢化の進展と介護問題への各国の対応</td> <td>(第12回)</td> </tr> <tr> <td>13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向</td> <td>(第13回)</td> </tr> <tr> <td>14. 21世紀の社会福祉に向けて</td> <td>(第14回)</td> </tr> <tr> <td>15. 総括</td> <td>(第15回)</td> </tr> </table>		1. 社会福祉の主体	(第1回)	2. 社会福祉ニーズとは何か	(第2回)	3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)	4. 社会福祉援助の意味	(第4回)	5. 社会福祉の援助形態	(第5回)	6. 社会福祉の援助方法	(第6回)	7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)	8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)	9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)	10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)	11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)	12. 少子・高齢化の進展と介護問題への各国の対応	(第12回)	13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)	14. 21世紀の社会福祉に向けて	(第14回)	15. 総括	(第15回)
1. 社会福祉の主体	(第1回)																														
2. 社会福祉ニーズとは何か	(第2回)																														
3. 社会福祉ニーズの把握	(第3回)																														
4. 社会福祉援助の意味	(第4回)																														
5. 社会福祉の援助形態	(第5回)																														
6. 社会福祉の援助方法	(第6回)																														
7. 社会福祉の専門性と業務内容	(第7回)																														
8. 社会福祉専門職の倫理	(第8回)																														
9. 介護ニーズの社会的増大	(第9回)																														
10. 福祉士法の社会的意義	(第10回)																														
11. 福祉士法の全体的内容	(第11回)																														
12. 少子・高齢化の進展と介護問題への各国の対応	(第12回)																														
13. 日本の社会保障をめぐる最近の動向	(第13回)																														
14. 21世紀の社会福祉に向けて	(第14回)																														
15. 総括	(第15回)																														
<p>【評価方法】</p> <p style="text-align: center;">試験と出席状況。</p>																															

【授業科目】 老人福祉論	【担当者】 佐野 英司
【開講期】 1年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>老人福祉についての基本的視点をしっかり身につけることを目標に授業を進めていきます。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 老人福祉の社会的背景について学びます。</li> <li>2. 老人福祉の理念・目的を学びます。</li> <li>3. 老人のおかれている状況及び生活実態について学びます。</li> <li>4. 現行および今後の老人福祉、老人保健の政策、制度について学びます。 また、老人福祉、老人保健サービスの体系、事業内容及び活用手続きなど、具体的実践活動について学びます。</li> <li>5. 老人福祉実践について具体的事例をもとに学び、ケアの在り方について考えます。</li> </ol>	
<p>【参考図書】</p> <p>「すべての人にゆたかな老いを」 (文理閣)</p> <p>「老いを生ききる」 (法蔵館・田邊順一著)</p> <p>その他、授業中に適宜紹介します。また、参考論文はコピーして授業で使います。</p>	
<p>【授業の進め方】</p> <p>授業は、上記授業目標を具体化し、プリントを中心に進めます。また、ビデオも活用します</p>	
<p>【評価の方法】</p> <p>授業は、定時に始めます。授業は最初から聞いていないと理解が不十分です。したがって、遅刻は厳しくチェックします。</p> <p>評価は、平常点（遅刻、欠席、数回実施するレポートの提出状況等）40%、前期試験（テスト）60%で、その総合点で評価します。</p>	

【授業科目名】 リハビリテーション論	【担当者】 菊池恵美子
【開講期】 1 年 後期	
<b>【授業目標】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. リハビリテーションの理念と基本原則を理解する。</li> <li>2. 障害の分類とその意味、必要な援助法を理解する。</li> <li>3. リハビリテーションに関わる専門職種の役割と機能を理解する。</li> <li>4. 対象者の疾患特性に応じた介護の知識と技法を学ぶ。</li> <li>5. 介護に必要な福祉用具についてその種類と適応を学ぶ。</li> </ol>	
<b>【テキスト・参考書】</b> 教科書：三訂介護福祉士養成講座4 リハビリテーション論 中央法規 1997 参考書：松村 秩編，生活リハビリテーションマニュアル，中央法規，1992	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>授業目標に対応した授業計画を以下に示す</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 導入（リハビリテーションの意味・歴史・障害とは？）</li> <li>2. リハビリテーションの体系と方法（関連機関・関連職種の機能）</li> <li>3. リハビリテーションの分野で使われている評価法</li> <li>4. 日常生活活動と介助法（実技）</li> <li>5. 障害の診かた（片まひ・パーキンソン他）</li> <li>6. 高齢者の心身機能の特性と体力評価（実技）</li> <li>7. 介護に必要な福祉用具の種類と使用方法</li> <li>8. まとめとテスト</li> </ol> <p style="text-align: center;">毎回生活リハビリテーションと介護に関するVTRを使用する</p>	
<b>【評価方法】</b> 評価：筆記試験100% 出席：学則に従う	



【授業科目名】 老人の心理	【担当者】 長田由紀子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】 この授業では、高齢者の心理的特徴を理解することにより、偏見を取り除き、より客観的に高齢者を捉えられるようにする。そして、年をとれば誰にでも起こる変化と病気などが原因で起こる変化を区別し、現実に行っている変化をどのように捉えたらよいか、どう対処したらよいかを考えられるようにする。</p>	
<p>【テキスト・参考書】 長嶋紀一・佐藤清公(編) 老人心理学 建帛社</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>1 老化の概念 老人について学ぶにあたり、老化や老年期といった言葉の定義、使われ方、また老化はどうして起こるかなどについて知る。</p> <p>2 感覚・知覚の加齢変化 視覚・聴覚・味覚・嗅覚・触覚などの感覚機能、および知覚機能が、加齢とともにどのように変化するのか、その結果起こってくる日常生活での問題、それに対する対応について考える。</p> <p>3 記憶の加齢変化 記憶の加齢変化の特徴について学び、記憶の低下している高齢者への対応や、記憶の低下による失敗を少なくするためにはどうしたらよいかを考える。</p> <p>4 学習能力の加齢変化 高齢者の学習を効果的に行うためにはどうしたらよいかを考える。また、学習の成果を捉える際の注意点として、個人差の考え方を理解する。</p> <p>5 知的機能の老化 正常な知能の加齢変化の特徴を知るとともに、これまでに研究方法によって異なる結果が示されてきたことから、研究方法の特徴および重要性を理解する。さらに異常な知能の低下状態としての老年期痴呆について学ぶ。</p> <p>6 高齢者の人格 高齢者の人格に関するこれまでの誤った捉えられ方、その背景について考える。また、高齢者の人格を理解するために人格の変容には何が影響しているかを知る。</p>	
<p>【評価方法】 試験・授業への取り組み方等から総合的に評価する</p>	

【授業科目名】 家政学概論	【担当者】 佐藤美千子
【開講期】 1 年 後期	
<p>【授業目標】          家庭生活（生命および人間活動力再生産の営み）の経営管理領域についての基礎的事項を学び、家事援助のあり方と社会的役割を考える。</p>	
<p>【テキスト・参考書】          参考書 宮崎礼子編 『家政学概論』 誠信書房</p>	
<p>授 業 計 画</p>	
<p>日本の高齢化は、生活のし方や価値観の大きな変化と重なって進展している。したがって、家事・介護援助に携わる者は、家族の多様なあり方への理解と、生活の様式や家族観が世代によって違いがあることへの洞察力をもつことが、きわめて重要となる。</p> <p>そこで、授業では、家族と家庭生活について、社会的視点と生活史的視点をもって把握できるように配慮し、家事援助者としての実践力を培う一助としたい。</p> <p>授業で取り上げる項目は、おおよそ次のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 家族・家庭生活の現状</li> <li>2. 生活周期・家族周期の変化と生活設計の課題</li> <li>3. 生活時間、家事・介護労働と疲労</li> <li>4. 家事援助のあり方とその社会的役割</li> <li>5. 経済生活、高齢者・障害者と消費者問題</li> </ol>	
<p>【評価方法】          レポート 平常点</p>	

【授業科目名】 介護概論 I	【担当者】	関谷 栄子
【開講期】 1年 前期		
<p>【授業 目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の目的と機能、介護援助の基本原則を理解する</li> <li>2. 人間の発達と自立的生活の過程についての知識を持ち、高齢者や障害者の介護並びにその家庭に対する援助について学ぶ</li> <li>3. 介護を行うに際して必要な援助方法の理論と実際を学ぶ</li> </ol>		
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 介護概論 メジカルフレンド社</p>		
授 業 計 画		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護の目的 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護の倫理（職業倫理、守秘義務、信用失墜行為の禁止）</li> <li>2) 介護の原則</li> <li>3) 介護の歴史</li> </ol> </li> <li>2. 介護援助関係論 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 一般的援助関係</li> <li>2) 介護援助者の援助特徴</li> <li>3) 介護福祉利用者の特徴</li> </ol> </li> <li>3. 介護の機能 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護技法の基本</li> <li>2) 自立支援、残存機能活用、自己決定、自己実現の理念と実際的な援助方法</li> </ol> </li> <li>4. 介護関係維持のための技法 <ul style="list-style-type: none"> <li>介護過程とはなにか</li> <li>観察、記録、報告</li> <li>コミュニケーション方法</li> <li>介護援助技術</li> <li>安楽と安全</li> </ul> </li> <li>5. 介護者の健康管理 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 健康管理</li> <li>2) 腰痛予防</li> <li>3) 事故防止と対策</li> <li>4) 労働安全衛生</li> </ol> </li> </ol>		
【評価方法】 レポート及びペーパー試験		

【授業科目名】 介護概論 II	【担当者】	関谷 栄子
【開講期】 1年 後期		
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護を必要とする人たちの身体・精神的健康状態の変化に対応した介護援助の理念と方法、介護援助関係の進め方及び関係職種との連携の方法を学ぶ。</li> <li>2. 介護と家政、看護・医療など関係領域や関係職種との職業上の連携について理解する。</li> <li>3. 個別介護計画のたて方およびケアプランの実際について理解する</li> <li>4. ケア・マネージメントについて理解する</li> <li>4. 介護提供の場とその特徴について学ぶ</li> <li>5. 自己の介護観を確立させる</li> </ol>		
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>テキスト 介護概論 メジカルフレンド社</p>		
授 業 計 画		
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 介護と家政、看護・医療との関係及び範囲の理解       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 自立的な生活維持に対するニーズと介護の機能</li> <li>2) 健康のメカニズムと健康障害時のニーズと介護の役割</li> <li>3) 高齢者、障害者（児）の生活障害と介護の役割</li> </ol> </li> <li>2. 関係機関との連携・連絡・協力の意義と方法       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 医療関係者との連携・協力方法</li> <li>2) 他の福祉従事者との連携・協力方法</li> <li>3) 地域における福祉関係者との連携・協力方法（ホームヘルプ活動との連携）</li> </ol> </li> <li>3. 個別介護計画のたて方、ケアプランのたて方と応用方法       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 介護計画と記録の方法、その活用の方法、評価方法</li> <li>2) ケースカンファレンスの方法</li> <li>3) ケア・マネージメントの方法</li> </ol> </li> <li>4. 介護活動の場に特有の問題と技法       <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 家庭</li> <li>2) 長期的介護施設</li> <li>3) 短期的介護施設</li> <li>4) デイサービス</li> </ol> </li> <li>5. 介護観の確立へむけての自己学習目標の設定</li> </ol>		
【評価方法】 レポート及びペーパー試験		

【授業科目名】 介護技術 I	【担当者】 中山幸代
----------------	------------

【開講期】 1 年 前期 ・ 後期
-------------------

【授業目標】

介護は、身体上または精神上の障害があることにより日常生活を営むのに支障がある人に対して、その人が他の誰でもなく自分らしい生活を送り続けられるように支援する活動である。介護技術は、この目的に基づき利用者の介護上の問題を解決するために、知識や技能を意図的に適用し応用する援助の手法である。

介護技術の習得に際しては、①それぞれの介護技術の根拠となる基礎的知識を学ぶ、②利用者の自立と安全・安楽を配慮した基礎的介護技術が実施できる、ことを目標とする。

【テキスト・参考書】

福祉士養成講座編集委員会編『三訂介護福祉士養成講座13 介護技術』、中央法規出版

授 業 計 画

	項 目	時間	実 技 内 容
1	観察	2	
2	居住環境の整備	8	ベットメイキング、シーツ交換
3	社会生活維持拡大への介護 (安楽な姿勢・体位、移動動作)	1 6	安楽な体位の工夫、移動動作 車椅子への移乗・操作、腰痛予防体操
4	衣服の選択と着脱の介護	4	寝衣・衣服の着脱
5	食事の介護	6	食事介助
6	身体の清潔の介護	1 6	洗面・髭剃り、部分浴・全身清拭、 入浴介助
7	排泄の介護	8	おむつの交換、便・尿器のあて方
	合 計	6 0	

【評価方法】

課題レポート（実技後に提出するレポートを含む）とペーパーテストにより評価する。

【授業科目名】 障害形態別介護技術 I	【担当者】 明渡陽子
【開講期】 1 年 前期 ・ 後期	
【授業目標】 まず、人体の解剖生理学を学ぶ。次に肢体不自由や内部障害及び加齢による障害とは何かの理解を通して、それらから派生する生活障害についての理解を深める。	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 人体の解剖学 -- 身体各部の名称と構成の理解</li> <li>2. 人体の生理学 -- 身体各部の機能の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳、神経系</li> <li>2) 循環器系</li> <li>3) 呼吸器系</li> <li>4) 消化器系</li> <li>5) 泌尿器系</li> <li>6) 生殖器系</li> <li>7) 内分泌系</li> <li>8) 血液系</li> <li>9) 感覚系</li> <li>10) 運動系</li> </ol> </li> <li>3. 肢体不自由や内部障害の理解 <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 脳卒中後遺症による肢体不自由</li> <li>2) 脳性麻痺、脊髄損傷、慢性関節リウマチ等による肢体不自由</li> <li>3) 心機能障害</li> <li>4) 呼吸機能障害</li> <li>5) 腎機能障害</li> <li>6) 消化機能障害</li> </ol> </li> <li>4. 高齢者の心身機能障害に対する理解</li> </ol>	
【評価方法】 筆記試験	

【授業科目名】 障害形態別介護技術Ⅰ	【担当者】 木下安子
【開講期】 1 年 前期・後期	
<b>【授業目標】</b> 高齢者介護の基本理念と介護方法の基礎を理解する。	
<b>【テキスト・参考書】</b> 鎌田ケイ子編著 お年よりの実践ケアガイド 保健同人社 その他 課題に応じて文献、マスコミの報道資料等を活用する	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>授業方法</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者の身体的・心理的・社会的特徴に関する書籍、資料を自主的に読み、その特徴・課題・介護方法を研究する。</li> <li>2. 集団学習（ワークショップ）によって深め、互いの知見を交流する。</li> </ol> <p>学習のすすめかた</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 高齢者に関する文献（単行本）マスコミの報道（新聞・雑誌記事等）を、各自の興味にしたがって探索する その探索結果の紹介と見解を発表し、討論する。 — 問題発見 —</li> <li>2. 明らかになった高齢者に関する課題を整理し、分野別にグループをつくり、内容を深める学習をし、その結果を発表、討論する。 — ワークショップ —</li> <li>3. 各自がこの過程で学んだ内容を整理し、次に掲げるテーマでレポートをまとめる。 — レポート作成 — レポートテーマ 高齢者をめぐる諸環境についての分析し、高齢者の介護の課題とこれからの方向</li> </ol>	
<b>【評価方法】</b> 評価はレポートおよび学習過程全体で行う	

<b>【授業科目名】</b> 障害形態別介護技術Ⅰ ( 肢体不自由・内部障害介護技術)	<b>【担当者】</b>	関谷 栄子
<b>【開講期】</b> 1年 前期・後期		
<b>【授業目標】</b> 1. 肢体不自由者・児や内部障害者の生活障害を総合的に理解する。 2. 肢体不自由者・児や内部障害者の日常生活上の介護援助の技法を学ぶ。 3. 福祉機器の活用方法を習得する。		
<b>【テキスト・参考書】</b> 授業で紹介する		
<b>授 業 計 画</b>		
<b>【内容】</b> (1) 肢体不自由者・児、内部障害者の精神的・身体的状況を観察する技術を学ぶ。 (2) 運動障害、感覚障害の疑似体験を行う。 (3) 肢体不自由者・児、内部障害者の介護ニーズを理解し、介護の目標を考える。 (4) 肢体不自由者・児、内部障害者のための個別介護技術を習得する 食事、排泄、清潔、整容、移動などのADL援助の技術 会話、意志表現など、コミュニケーション方法の技術 (5) 福祉機器の活用方法を学ぶ 杖、車椅子など移動用機器の操作及び介護方法を学ぶ 望ましい福祉機器の選択及び開発について学ぶ		
<b>【評価方法】</b> レポート及びペーパー試験		



【授業科目名】 介護実習 I	【担当者】	西方規恵 関谷栄子 新井幸恵 吉沼孝子 中山幸代
【開講期】 1年 後期		
<p>【目標】</p> <p>実習第1期（見学実習）</p> <p>(1) 施設で暮らしている利用者の、日々のくらしの様子を理解する。</p> <p>(2) 利用者の日常生活援助（処遇）がどのように行われているかを学ぶ。</p> <p>(3) 実習期間内にできるだけ多く利用者と接する時間を持つ。</p> <p>(4) 介護活動に部分参加し、基本的な日常生活援助に必要な介護技術を修得する。</p>		
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>		
授 業 計 画		
<p>【実習内容】</p> <p>(1) 実習開始前に施設を訪問し、オリエンテーションを受ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・施設の沿革、経営方針</li> <li>・施設設備（建物の構造、地理的条件、居室構成等）</li> <li>・利用者について（利用者数、年齢・性別、介護の程度（ADL））</li> </ul> <p>(2) 建物の様子、日課等、施設の概略を理解する。</p> <p>(3) 利用者への介護場面や援助の見学、介護への部分参加</p> <p>(4) 利用者とのコミュニケーション方法を習得する。</p> <p>(5) 基本的な介護技術の修得</p> <p>(6) 実習内容、自分の行動と観察、習得したこと等の学習内容を記録する。</p> <p>見学実習を中心として以上の実習を行う。</p> <p>学生は実習指導者のスーパービジョン及び教員の巡回訪問指導を受ける</p> <p>指導内容は学生の自己目標の達成状況、記録の点検、施設との調整等である。</p> <p>実習の期間</p> <p>1年次の11月に2週間</p> <p>平成10年度は11月2日から14日までの12日間</p> <p>実習施設</p> <p>実習施設は、特別養護老人ホーム、身体障害者療護施設・肢体不自由児施設</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・救護施設（この中から1か所に1-2週間）。</li> </ul> <p>学校が指定する施設で行う。</p>		
【評価方法】 レポート及び平常点		

【授業科目名】 介護実習 II	【担当者】	西方規恵 関谷栄子 新井幸恵 吉沼孝子 中山幸代
【開講期】 1年 後期		
<p>【目標】</p> <p>実習第2期（参加実習）</p> <p>(1) 利用者の施設利用に至る経緯を把握し、現在の福祉ニーズと援助の状況を理解する。</p> <p>(2) 利用者とはできるだけ深くかかわり、生活援助のための適切な技術を修得する。</p> <p>(3) 施設職員の職種と業務内容を理解し、介護職員との連携の実際を学ぶ。</p> <p>(4) デイサービス・在宅介護支援センター等、地域サービスを体験学習し生活とは何かを広く学ぶ。</p> <p>(5) 実習第3期で行なうケーススタディにむけて準備する。</p>		
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>		
授 業 計 画		
<p>【実習内容】</p> <p>(1) 利用者の入所理由、精神的・身体的な状況と、現在の生活の状況を、職員及び記録等から理解する。</p> <p>(2) 介護活動に部分参加しながら、居住者に深く関わり介護技術を身につける。 コミュニケーション手段や、生活援助技術を深める。</p> <p>(3) 介護職員以外の関係領域の職員から学ぶ。</p> <p>(4) デイサービス・在宅介護支援センター等の地域ケアプログラムを体験学習する</p> <p>参加実習を中心に積極的な姿勢で施設利用者に働きかけ、介護技術を身につける。 学生は実習指導者及び教員のスーパービジョンを受ける。 指導内容は学生の自己目標の達成状況、記録の点検、施設との調整等である。</p> <p>実習の期間</p> <p>実習の期間は1年次の2-3月に4週間の実習をおこなう 平成11年2月15日から3月13日までの24日間実習する</p> <p>実習施設</p> <p>実習施設は、身体障害者療護施設・肢体不自由児施設・救護施設・特別養護老人ホーム、在宅支援センターの中から1か所に1～2週間、学校が指定する施設において実習する。</p>		
【評価方法】 レポート及び平常点		

【授業科目名】 実習指導	【担当者】	西方規恵 関谷栄子 新井幸恵 吉沼孝子 中山幸代
【開講期】 1年 前期・後期		
<p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 体験学習の意義の重要性について理解する。</li> <li>2. 体験学習を通じて知識、技術、態度を具体的かつ実際に応用する能力を身につける。</li> <li>3. 学校内において修得した諸学習を応用し、施設実習において実践的な技術を体得する。</li> <li>4. 介護福祉専門職としての自覚を高め、専門職に求められる資質、技能及び自己に求められる課題把握等、総合対応能力を修得する。</li> <li>5. 個別介護計画をたてて実施し評価する方法を学ぶ。</li> </ol>		
<p>【テキスト・参考書】</p> <p>授業で紹介する</p>		
授 業 計 画		
<p><u>実習1 前期</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 課題レポートのグループ討議を行う (3回)</li> <li>2. 学内における介護実技実習 移動技術、体位交換、 (9回)</li> <li>3. 施設見学</li> <li>4. 配属施設の決定</li> </ol> <p><u>実習1 後期</u></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>5. 実習前のオリエンテーション 実習の目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>・一年次と二年次における実習課題、第Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ期実習目標の理解</li> <li>・各学生の自己目標をたてる</li> </ul> 施設の理解 <ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の理解</li> <li>・援助内容の確認</li> </ul> </li> <li>6. 実習の注意 <ul style="list-style-type: none"> <li>見学実習、事前オリエンテーションの方法</li> <li>実習記録の意義と書き方 記録の取り扱い方の注意</li> <li>利用者のプライバシー保護</li> </ul> </li> <li>7. 実習後のスーパービジョン <ol style="list-style-type: none"> <li>1) グループスーパービジョン</li> <li>2) 記録の評価</li> <li>3) 自己目標との検討</li> </ol> </li> </ol>		
【評価方法】 レポート及び平常点		

【授業科目名】 家族福祉論	【担当者】 杉本一義
【開講期】 1 年 後期	
【授業目標】 人生福祉の視座から、現代社会の性格、家庭生活の問題を捉え、生涯にわたる家族福祉の意義、理念、課題、家庭福祉のあり方、福祉の施策、援助方法を文献的、体験的に学習し、実践力を養う。	
【テキスト・参考書】 『家族福祉の理論と実際』黒川昭登著 『人間福祉学入門』杉本一義訳	
授 業 計 画	
はじめに 問題意識：人生福祉の視座から家族福祉のあり方を探求する。 I 家族福祉の人生福祉的発想 1、人生四季と生涯学習：生成期、自立期、安定期、受容期の特徴 2、人間存在の方式と福祉援助の体系：生物・文化社会・存在・洞察と行為・直接と間接 3、人生福祉と人生態度：福祉観の推移、人生福祉の意義、自己実現 II 現代社会と家族問題 1、現代社会の性格：競争原理と協力原理、価値観の多様化、哲学の貧困 2、家族構成と役割機能：単身、少子、母子、父子、高齢者の家庭 3、現代家族の問題状況：離婚、疾病、失業、障害、世代間の断絶 III 家族福祉と支援体制 1、児童福祉と家族福祉：子育て支援、家庭教育、学校、社会教育と福祉援助 2、福祉施策と福祉施設：保育・障害児童・高齢者対策と各種施設 3、在宅福祉と地域福祉：個人差、地域性、選択権の保障と調整機能 IV 福祉援助の実践展開 1、家族福祉の根本目標：人間性の活性化、自己実現、相互主体的生活空間 2、福祉臨床（ケースワーク）と教育臨床（カウンセリング）の統合的実践 3、家族福祉の事例研究：生活適応と生活指針 * 自分自身の生活適応の状況の「離見」 * ロールプレイ、グループ討議	
【評価方法】 日常の学習態度、レポート、筆記試験の総合評価	

【授業科目名】 ボランティア論	【担当者】 田中 弥生
【開講期】 1年 前期	
<p><b>【授業目標】</b>  介護援助にプロフェッショナルとして従事する者は、多種多様な人々と関わってゆかねばならない。被介護者、その家族、施設の職員、そこにボランティアとして参加する人々等である。介護援助に従事する者は、これらの調整者として、相談者として、そしてリーダーとしての役割を期待される。本授業の目的は以下の2点である。ひとつは、ボランティアやそれを稼働させるために必須のNPO（非営利組織）を地域と国際の双方の広い視点で理解すること。もうひとつは、介護援助者の先の役割の基本となる資質、すなわちプレゼンテーション力（自らの考えをまとめ、相手に伝える力）を向上させることである。</p>	
<p><b>【テキスト・参考書】</b>  『米国の非営利セクター入門』ダイヤモンド社      『台頭する非営利セクター』ダイヤモンド社  『公益法人の実像』ダイヤモンド社      『社会現象としての財団』NHK出版  『日本の財団』中公新書      『非営利組織の自己評価手法』ダイヤモンド社  コピー配布（米国のコーポレート・シチズンシップ）</p>	
<b>授 業 計 画</b>	
<p>前半ではボランティア活動についての基本的視点を学ぶ。  後半で地域レベルでのボランティア活動や地域活動について学ぶ。また、国レベルもしくは国際的視野にたつてボランティアの社会的意義について考察する。ボランティア活動が市民社会創造という意味で、それが日本国内だけでなく国際的にどのような意義をもっているのか認識するためである。ボランティア活動やNPOが陥りやすい近視眼的な視野を回避し、より広く長期的な視点で接する態度を養いたい。  以下はその構成要素。講義には、ゲスト講演を交えて行う。</p> <p>講義計画</p> <p>1. 講義テーマ</p> <p>(1) ボランティアに関わる多様な主体の活動事例紹介  企業の社会貢献  公益法人  NPO 日本地域で活動するNPO  NGO 国際援助協力に従事する日本／外国のNGO  インターメディアリ：ボランティアや寄付をしたい人々とNPOとの仲介斡旋をする団体</p> <p>(2) 非営利組織論  ボランティアを組織化し稼働させるためには、組織が必要になる。だが、その組織は企業や政府とは異なる側面をもっている。ここでは、非営利組織の成り立ち、運営の特徴について学ぶ。</p> <p>(3) 国際的にみたボランティア・セクター  非営利セクターの規模はわれわれが予想するよりはるかに規模が大きい。ここでは、世界初の非営利セクターの国際比較調査、公益法人調査などから、その実態を明らかにしてゆく。</p> <p>2. 講義方法</p> <p>(1) 講義  講師の講義では、ゲストスピーカーによる実践例、現場の声を紹介する。</p> <p>(2) プレゼンテーション  講義内容もしくは本人が選択したテーマで、毎回発表を行う。発表内容だけでなく、論旨の組み立て方、発表態度まで詳細を指導し、介護援助のプロとして女性として優れた態度を身につけるための訓練の場を提供する。  プレゼンテーションは毎回実施する予定。</p>	
<p><b>【評価方法】</b>  プレゼンテーション 40%      授業態度 20%      試験 40%</p>	

【授業科目名】 発達心理学

【担当者】 吉川はる奈

【開講期】 1 年 後期

【授業目標】 生活のなかの子どもの姿から子どもの発達を理解することをめざします。  
単なる発達理論を消化するのではなく、具体的な子どものイメージを抱いたり、身近な子どもの姿に着目できる眼をもってほしいと思います。  
なお講義のなかでは、具体的に理解していくためにVTR、スライド、OHPなど視聴覚教材も活用していきます。

【テキスト・参考書】

テキストを使用する他、プリントを必要に応じて配布します。また参考書もその都度紹介するので各自勉強して下さい。

### 授 業 計 画

- 第1回 イントロダクション；子ども時代を思い出してみよう
- 第2回 ヒトの出生時の状態と発達の可能性
- 第3回 発達の過程
- 第4回 対人世界の基礎；愛着の形成。
- 第5回 前言語的コミュニケーション
- 第6回 言語・コミュニケーション
- 第7回 幼児前期の発達と特徴
- 第8回 幼児後期の発達と特徴
- 第9回 遊びが培うもの；仲間集団との関わり
- 第10回 幼稚園・保育園での子どもたち
- 第11回 研究発表（生活の中の子どもの姿の観察・発表）
- 第12回 まとめ

【評価方法】

成績は出席、講義中の小レポートさらに期末レポートを参考にします

【授業科目名】 保育文化論	【担当者】 八木紘一郎
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】 この授業では、あえて、子どもをとりまく既存のさまざまな表現文化環境を概観し、保育の場における文化的影響を探求する。これらを通して、個人差や個性などの差異のある子どもの自己の存在感、表現者としての覚知、自己表現の方法と技術を身につけていく過程と、その援助方法について基本的な理解をさせ、それに基づいて、世代やライフスタイルの違いなどの差異をもった人々の協同的な表現文化活動の実現について理解を広げさせる。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>【 内 容 】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 保育文化を考える意義と目的 <ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会における表現文化環境とその影響</li> <li>保育文化が抱える課題と役割</li> <li>子どもの表現を通して考える問題</li> </ul> </li> <li>2. 表現行動の意味理解について <ul style="list-style-type: none"> <li>表現行動の意味理解</li> <li>造形的表現の意味</li> </ul> </li> <li>3. 表現の変容過程 <ul style="list-style-type: none"> <li>表現者としての変容過程</li> <li>描画表現の変容過程の解釈</li> </ul> </li> <li>4. 表現文化活動の援助方法 <ul style="list-style-type: none"> <li>造形による表現活動の援助法</li> <li>多様な表現メディアによる表現活動の援助法</li> </ul> </li> </ol>	
【評価方法】	

【授業科目名】 音楽とダンス	【担当者】 若松美恵子
【開講期】 1 年 前期	
<p>【授業目標】</p> <p>リズムカルに身体を動かしたり、身体で表現する活動を通して、踊る楽しさや表現する喜びを体験し、表現力を高め、その文化的、教育的価値を認識する。また、それらの表現により自己の存在感を充たし、表現意欲を育む援助の仕方を学ぶ。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>(1) 身体で表現することの意味と意義</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活で見られる身体表現とダンス</li> <li>・身体表現の発達段階に見られる特徴</li> <li>・人間はなぜ踊るか</li> <li>・ダンスの特性と意義</li> </ul> <p>(2) 身体表現・ダンスの技術・方法の習得を通して踊る楽しさ、表現の喜びを味わう</p> <p>①リズムカルに身体を動かすことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・フォークダンス</li> <li>・体操・音楽によってリズムカルにのびのび動く</li> </ul> <p>②歌いながらリズムカルに表現力豊かに動くことを楽しむ</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・手あそび・歌を伴ったあそび</li> </ul> <p>③身体で自由に表現することを楽しむ</p> <p>(3) 身体表現・ダンスの援助の仕方</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・共に身体を動かし楽しむ</li> <li>・あるがままを受け止め気持ちを共有する</li> <li>・豊かな感性、創造的な援助</li> </ul>	
<p>【評価方法】</p> <p>実技試験および平常点</p>	



[授業科目名] 音楽とダンス	[担当者] 秋山治子
[開講期] 1年 後期	
<p>[授業目標]</p> <p>様々な状況（たとえば音楽が鳴っていない場面など）において、ここに音楽的要素を加えたほうがいいのか否かなどの判断や閃きをおこすことが出来るような多面的な音楽力、音楽性を養うことを目的とする。</p> <p>授業のやりかたは実際に音楽することを通して出来るだけ実践的に行って行く予定である</p>	
<p>[テキスト・参考書]</p> <p>授業の中で適宜指定する</p>	
授業計画	
<ol style="list-style-type: none"> <li>1 音楽の種類、現代の音楽状況などを織り込みながら音楽を考える</li> <li>2 子どもの好む音楽、若い人が好む音楽、高齢者が好む音楽という線引きができるかどうかについて、改めて考えてみる</li> <li>3 音楽を 作って</li> <li>4 自分で鳴らして</li> <li>5 ラジオ体操をしてみよう</li> <li>6 3～5の授業内容・創作結果などについての意見交換</li> <li>7 歌謡曲やポップスやこどもの歌や学校唱歌などを取り上げて、“旋律”の中にあるリズムを分析してみる</li> <li>8 ”</li> <li>9 曲のリズム型や伴奏音、伴奏型を変えると全体像はこんなに変わる</li> <li>10 ”</li> <li>11 色々な音楽や音楽行動を探してみる</li> <li>12 音楽について話し合う</li> </ol>	
<p>[評価方法]</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 授業にたいする取組み方、出席</li> <li>2 作品、レポート</li> </ol>	

【授業科目名】 遊びの造形	【担当者】 八木紘一郎・枝常弘
【開講期】 1 年 前期・後期	
<p>【授業目標】 遊びや生活を潤す創意工夫と意欲が減退しがちな状況と環境の中で、積極的に自らの手と思考によって、心身の活性化を促す遊びを創出し享受する技術および援助方法を修得させる。具体的には、身近な素材や用具を使い、個人及び集団でゲーム的な遊び、ストーリー的な遊びを創作するアイデアと娯楽的要素をもった援助方法を演習及び実習で身につけさせる。</p>	
【テキスト・参考書】	
授 業 計 画	
<p>【 内 容 】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 造形と遊びの関係 <ul style="list-style-type: none"> <li>現代社会における造形と遊びの意義</li> <li>造形と遊びの原理</li> <li>造形遊びの種類と特性</li> </ul> </li> <li>2. ストーリー性のある遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>ストーリー性のある遊びの種類としくみ</li> <li>指導の仕方</li> </ul> </li> <li>3. 物理的な力を利用する遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>物理的な力を利用する遊びの種類</li> <li>その楽しみ方と指導方法</li> <li>飛ばす、ころがす、回転させる、浮力を使う、当てる、倒す、</li> </ul> </li> <li>4. ゲーム的な遊び <ul style="list-style-type: none"> <li>物理的な力を原理にしたゲームの工夫</li> <li>楽しみ方と指導の仕方</li> </ul> </li> </ol>	
【評価方法】	



学籍番号・

氏 名・

---

〒187-8570 東京都小平市小川町1-830  
教務課042(346)5619